

ICT の上手な活用に向けた 情報モラル

診断チェックブック

か て い つ か
家庭でも使える
チェックシート
か く に ん
で確認しよう



酒井 郷平
(常葉大学 准教授)

教授用資料

本資料は、「教科書発行者行動規範」に則ったものです。

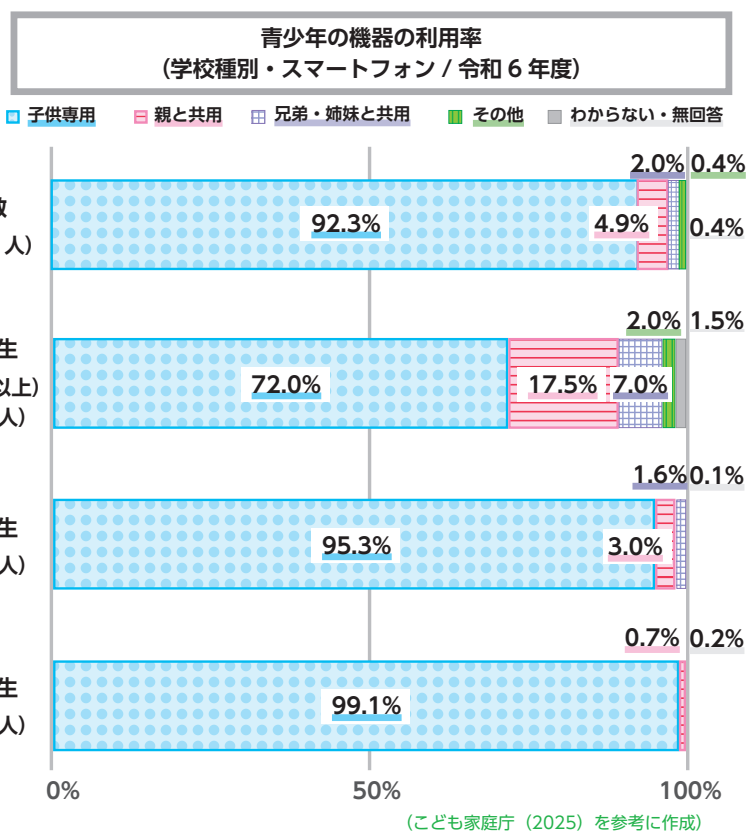


学校図書株式会社

■子供たちを取り巻く ICT 環境の変化

一人一台端末の整備が進み、子供たちは学校でも家庭でも、日常的に ICT に触れるようになりました。学校での調べ学習や発表をはじめ、家庭でもスマートフォンを利用したコミュニケーションの機会が増加しています。こども家庭庁（2025）によれば、インターネットを利用すると回答した青少年のうち、子供専用のスマートフォンを利用している割合は、小学生（10 歳以上）72.0%、中学生 95.3%、高校生 99.1%となっています。

このように子供たちを取り巻く ICT 環境はここ数年で大きく変化しており、情報社会の進展に伴い、こうした情報機器を上手に活用する力を育てていく必要があります。



■学校と家庭との連携の必要性

子供たちの情報端末利用が広がる一方で、スマートフォンの長時間利用、SNS に起因するコミュニケーショントラブル、生成 AI の活用に関する問題など、情報端末の利用に関わるさまざまなトラブルも報告されています。こうした課題に対して、情報端末の利用を一律に禁止することで防ぐことは、現実的に難しくなっています。

そのため、情報モラル教育を通して、ICT の利便性とリスクの両面を理解し、適切な判断や行動につなげていくことが重要です。しかし、これらの力は、学校や教職員による指導だけで身につくものではありません。

スマートフォンをはじめとする情報機器の利用時間の多くは家庭で過ごす時間であり、トラブルを未然に防ぐためには、家庭との連携が不可欠です。家庭では、保護者自身が情報モラルに関する知識を持つこと、子供の利用状況を把握すること、話し合いを通じてルールを考えることなどが重要な役割となります。こうした学校と家庭の連携が、子供たちだけでなく、保護者自身の情報モラルを見直すきっかけにもなります。

そこで本リーフレットでは、学校から子供たちや家庭に向けた情報モラルに関する情報提供を目的として、セルフチェックを通して、気をつけるべきポイントを学べるワークシートを掲載しています。情報モラルの授業や保護者参観、家庭向け配布資料など、さまざまな場面でご活用いただければ幸いです。



本リーフレットの使い方（先生向け）

本リーフレットは、チェックリスト（児童用・保護者用）と解説ページ（各テーマ見開き）に分かれています。以下の使用目的に応じて、活用方法を選択してご使用ください。

児童が学習して、家庭に持ち帰る場合

- ① チェックリスト（児童用・p4）を使用し、児童の情報活用についてチェックさせる
↓
- ② チェックがつかなかった項目の解説ページ（見開き左側）を確認させる
↓
- ③ 解説ページを確認後、各自で出来そうな対策（見開き右上）を確認させる
↓
- ④ 家庭に持ち帰らせ、保護者に対策と保護者の方へ（見開き右下）を読んでもらう

保護者へ配布する場合

- ① チェックリスト（家庭用・p5）を使用し、保護者の家庭での情報活用についてチェックさせる
↓
- ② チェックがつかなかった項目の解説ページ（見開き左側）を確認させる
↓
- ③ 家庭に持ち帰り、出来そうな対策（見開き右上）を子供と考えてもらう

KEY WORD

◇ 情報モラル

インターネットやICTを利用する際に、安全で適切な行動を判断し、実行するための考え方や態度のこと。

◇ 情報活用能力

学習の基盤となる資質能力のひとつであり、必要な情報を集め、整理し、比較・判断し、自分の考えとして表現する力のこと。

◇ ICT（情報通信技術）

パソコンやタブレット、スマートフォン、インターネットなど、情報を扱うための技術の総称。

◇ SNS（ソーシャル・ネットワークング・サービス）

インターネット上で、人とつながり、情報をやり取りするサービスのこと。

◇ 生成AI

プロンプトと呼ばれる入力指示に応じて、文章や画像などを自動で生成する技術のこと。

◇ ファクトチェック

得た情報が正しいかどうかを、複数の資料や信頼できる情報源で確かめること。特に、生成AIやインターネット上の情報については、真偽を確かめるためにファクトチェックを行うことが大切である。

◇ 投稿

SNS上でテキストや写真、動画、音声などのコンテンツを公開・発信する行為のこと。



あなたは、学校や家で情報をあつかうとき、どのように活用していますか。下の内容をよんで、当てはまるものにチェックしましょう。

チェックがつかなかった内容の解説を確認し、どのようにあつかえばよいかを考えましょう。

ばんごう 番号	ない よう 容	チェック	かいせつ 解説
①	自分が1日どのくらいスマホやゲームをしているか、 確認している	☒	かいせつ A 6-7 ページ
②	スマホやゲームをするときは、長く使いすぎないように 自分で休憩したり、時間を決めて使ったりしている	☒	
③	自分が使っている SNS の名前やアプリを、 家の人に伝えている	☒	かいせつ B 8-9 ページ
④	スマホやネットで友達と話するとき、イヤな思いをさせたり、 イヤな思いをしたことがある	☒	
⑤	SNS で写真や動画を公開するときは、家の人に見せたり 確認してもらったりしている	☒	かいせつ C 10-11 ページ
⑥	SNS で写真や動画を出すときは、名前・住所・学校などの 情報がわからないように気をつけている	☒	
⑦	どのアプリやサービスで生成 AI を使っているかを、 家の人に伝えている	☒	かいせつ D 12-13 ページ
⑧	生成 AI で、勉強のわからないところを調べたり、宿題を やったりしている	☒	
⑨	勉強や調べもののために、スマホやタブレットを使っている	☒	かいせつ E 14-15 ページ
⑩	勉強のときに、どのアプリや動画を使うか、 家の人に相談している	☒	



このページは、弊社 HP からダウンロードすることができます。
左の QR コードまたは下記の URL よりダウンロードしてください。
https://gakuto.co.jp/docs/download/pdf/workseet_child.pdf



情報活用 についてのチェックリスト 保護者用

情報を扱うとき、お子さんはご家庭でどのように活用していますか。またそのルールについて、ご家庭でどのようにルールを決めていますか。下の内容を読んでチェックしましょう。**チェックがつかなかった内容**から優先して解説を確認し、どのように扱えばよいか、ご家族で話し合しましょう。

番号	内 容	チェック	解説
①	子供がスマホやゲームをしている時間を把握できている	☒	解説 A 6-7 ページ
②	子供がスマホやゲームをする際に長時間利用しないための注意やアドバイスをしている	☒	
③	子供が使用している SNS を把握できている	☒	解説 B 8-9 ページ
④	子供が SNS を使用する際に注意やアドバイスをしている	☒	
⑤	子供が投稿している写真や動画を把握できている	☒	解説 C 10-11 ページ
⑥	子供が写真や動画を投稿する際に、注意やアドバイスをしている	☒	
⑦	子供がどのように生成 AI を使用しているかを把握できている	☒	解説 D 12-13 ページ
⑧	子供の生成 AI の使い方について、注意やアドバイスをしている	☒	
⑨	子供が学習のために、スマホやタブレットを使用することがある	☒	解説 E 14-15 ページ
⑩	家庭学習において、スマホやタブレットを使用した学習のアドバイスをしている	☒	



このページは、弊社 HP からダウンロードすることができます。
左の QR コードまたは下記の URL よりダウンロードしてください。
https://gakuto.co.jp/docs/download/pdf/workseet_parent.pdf



かいせつ

ちょう じ かん り よう

長時間利用のトラブル

A

どうなる？

さいきん しょうがくせい つか 最近では、小学生でもスマホやゲームを使いすぎてしまうことが増えています。

なが じ かん つか つつ 長い時間使い続けると、からだや生活にどんなえいきょうがあるのでしょうか。

ここでは、大きく 2 つのポイントを紹介（しょうかい）します。



① からだへのえいきょう

・スマホやゲームを長時間（ちょうじかん）使うと、めがつかれて視力（しりょく）が下がったり、くび、かた、いた 首や肩が痛くなったりすることがあります。また、夜（よる）おそくまで使（つか）ってしまうと睡眠（すいみん）不足（ふそく）になり、学校（がっこう）の授業（じゅぎょう）に集中（しゅうちゅう）できなくなることもあります。

② 生活へのえいきょう

・スマホやゲームを優先（ゆうせん）してしまい、しゅくだい 宿題（しゅくだい）ややるべきこと（あとも）を後回（あとまわ）しにしてしまうことがあります。また、しょくじ 食事（しょくじ）中（ちゅう）や移動（いどう）中（ちゅう）でも気（き）になってしまい、「ながら利用（りよう）」などマナーい（い）はん（はん）をしてしまうこともあります。

● 使いすぎが続くとどうなる？

このようなことが起きてしまっている場合（ばあい）、ゲームやスマホを「使いすぎている状態（じょうたい）」といえます。やめたいと思（おも）っていても自分（自分）では止（とど）められないときは「依存（いぞん）」に近い状態（かんが）だと考えることができます。

どうする？

① 使っている時間（つか じ かん）を見えるようにしてみよう

・まずは、自分（自分）が 1 日（いち にち）にどれくらいゲームやスマホを使（つか）っているかを調（しら）べてみましょう。「このくらいかな」と思（おも）っている時間（じ かん）と、ほんとうの時間（じ かん）がちがうこともあります。タイマーなどを使（つか）って時間（じ かん）を記録（きろく）し、グラフにすると、自分の時間（じ かん）の使（つか）い方（かた）を見直（みなお）すことができます。



② 時間（じ かん）を守るためのくふう（かんが）を考えてみよう

・「気（き）をつけよう」と思（おも）っていても、時間（じ かん）を守る（まも）るのはむずかしいことがあります。そこで、自分（自分）にできそうなくふう（かんが）を考えてみましょう。例えば、時間（じ かん）を忘（わす）れやすい人は、タイマーをセッ（あ）つておくと安心（あんしん）です。また、ゲームやスマホを使（つか）う前（まえ）に「何時（なんじ）まで使（つか）うか」を紙（かみ）に書（か）いてはっておい（お）たり、おうちの人（ひと）に伝（つた）えておい（お）たりすることもたいせつ（たいせつ）です。



考えてみよう

(^{つか}使い方や^{かんが}ルールを考えてみよう)



●ゲームは1日()時間()分まで

例：1時間00分

●ネットは1日()時間()分まで

例：1時間00分

●ゲームやネットは()で使う

例：おうちの人が見える場所

●ルールが^{まも}守れなかったら

()する

例：利用制限する・ルールを守るくふうを考える



保護者の方へ



【家庭で気をつけたいこと】

多くの子供たちが陥るトラブルとして、スマホやゲームの使いすぎの問題が挙げられます。こうしたトラブルを防ぐためにも、「スマホをやめなさい!」という声かけではなく、「あとどれくらいで止められそう?」「今日は何時間使った?」など、**子供たちの客観的な利用の把握を促す声かけ**が有効です。また、スマホやゲームを止めても代わりに行える「余暇の過ごし方」を一緒に探してあげることも家庭の役割としては大切です。スマホやゲームを止めればよいという発想だけではなく、**子供たちがより充実した時間を過ごせるための時間の使い方を一緒に考えてあげる**ことが求められます。

【ルールの決め方】

長時間利用において、ルールを決めておくことは非常に大切です。しかし、ルールの内容として、「スマホやゲームを使いすぎない」という抽象的な内容では、子供たちは守ることができません。できるだけ「**1日〇時間まで**」や「**使用するのはリビングのみ**」といった**具体的な内容を含める**にしましょう。



かいせつ

コミュニケーションアプリのトラブル

B

どうなる？

スマートフォンやタブレットが広まり、SNS やチャットアプリを使って、
たくさんの人とやり取りができるようになりました。とても便利ですが、気を
つけないとトラブルにつながることもあります。



①言葉のトラブル

- ・オンラインでは、相手の顔が見えません。そのため、つい強い言い方をしまったり、いやな言葉を書いてしまったりすることがあります。また、いやな言葉を書きこまれることもあります。

②仲間外れや画面の拡散の問題

- ・言葉だけでなく、チャットのグループで仲間外れにしたり、やり取りの画面をスクリーンショットで保存して広めてしまったりすること、トラブルの原因になります。

●小さなことが大きな問題に

このようなことがきっかけで、いじめに発展したり、つらい気持ちになって学校に来られなくなったりするなど、深刻な問題につながることもあります。

どうする？

①「いやだな」と感じることは、人によってちがうことを意識しよう

- ・「自分がされていやなことは、相手にもしない」という考え方はとても大切です。
でも、人によって、言われていやな言葉や、されて困ることはちがいます。SNS で言葉を書いたり、何か行動したりする前に、「これをされたら、相手はどんな気持ちになるかな？」と、一度立ち止まって考えることが大切です。



②困ったときの相談のしかたを考えておこう

- ・SNS でのやり取りでは、だれでも困ってしまうことがあります。そんなときにそなえて、相談のしかたを前もって考えておきましょう。例えば、次のようなことについて考えておくことが大切です。
「どんなときに相談するのか」「だれに相談するのか」「どうやって相談するのか」
- ・また、おうちの人に相談しやすくするために、ふだん使っている SNS やアプリについて、伝えておくことも大切です。

考えてみよう

(使い方やルールを^{つか}^{かた}考えてみよう)



- メッセージ^かを書くときは

(_____) に^き気をつける
例：相手^{れい}がどう^{あいて}感じる^{かん}か

- グループでのやり取り^とは

(_____) に^き気をつける
例：グループ以外^{れい}の人^いが見^みるかもしれないこと

- こまったことがあったら

(_____) に^{そうだん}相談^{さうだん}する
例：おうち^{れい}の人^{ひと}



保護者の方へ



【家庭で気をつけたいこと】

SNS やチャットアプリによるトラブルは、周囲の大人が気づきにくく、対応が遅れてしまうことがあります。こうした事態を防ぐためには、

- ① 子供が利用している SNS やアプリを把握しておくこと、
- ② 日頃から相談しやすいコミュニケーションを心がけること、
- ③ 子供の様子の変化に目を向けること

が重要です。

特に、「学校の話をしたがらなくなった」「スマートフォンを家族の见えないところで使うようになった」などの変化は、SNS やチャットアプリでのトラブルが背景にある場合もあります。こうした様子が見られた際には、注意深く関わるのが大切です。また、子供が相談してきたときには、まず相談してくれたことを受け止め、話を聞く姿勢を大切にしましょう。

【ルールの決め方】

SNS やチャットアプリの利用に関するルールを決める際には、「家族の見える場所で使う」「困ったことがあればすぐに相談する」といった内容を含めておくといよいでしょう。また、**トラブルが起きた場合には、子供の許可を得た上でやり取りの内容を確認すること**も、早期対応につながります。家庭で話し合い、納得した上でルールを決めておくのが大切です。



かいせつ

しゃしんとうこう 写真投稿のトラブル

C

どうなる？

スマートフォンやタブレットのカメラを使うと、写真や動画を簡単に、SNS に投稿することができます。とても便利ですが、使い方をまちがえるとトラブルにつながることもあります。



① 写真や動画にはたくさんの情報が写っている

- 写真や動画には、人の顔だけでなく、制服、学校名、家のまわりの風景、持ち物など、いろいろな情報が写っています。何も考えずに投稿してしまうと、知られたくない自分や人の情報までわかってしまい、こわい思いをすることがあります。

② 写真には許可が必要

- 友達やまわりの人が写っている写真を、許可なく投稿すると、トラブルになることがあります。自分では「楽しい写真」でも、写っている人にとっては「のせてほしくない写真」のこともあります。

● 拡散により人間関係の問題やつきまとい被害になることも

こうした写真や動画の投稿は自分が思いもよらないスピードで、知らない人まで拡散されてしまう可能性があります。こうしたことがきっかけで、友達との関係が上手くいかなくなってしまうたり、知らない人からのつきまといの被害につながってしまうことがあります。

どうする？

① 投稿する前に「写っているもの」をよく見よう

- 写真や動画を投稿する前に、顔だけでなく、背景や持ち物にも目を向けてみましょう。「この写真から、どんなことが分かるかな？」と考えることで、知られたくない情報が広がるのを防ぐことができます。また、撮った写真や動画をすぐに投稿せず、少し時間をおいてから考えることも、大切なくふうです。



② これまでの投稿と合わせて考えてみよう

- SNS では、前に投稿した写真や動画も見ることができます。1つ1つの投稿に気をつけていても、過去の投稿と合わせることで、かくしたつもりの情報がわかってしまうことがあります。たとえば、前の写真から服そうがわかり、顔をかくしていても「だれか」がわかってしまうこともあります。投稿するときは、今の写真だけでなく、これまでの投稿と合わせてわかることがないかも考えてみましょう。

考えてみよう

(使い方やルールを考えてみよう)



● 人の顔や名前が写っている写真を公開していいのは

(_____) まで

例：家族、許可を取った友達

● (_____) が

写っている写真はネットで公開しない

例：学校名、住所

● 困ったときや判断に迷うときは

(_____) に相談する

例：おうちの人



保護者の方へ



【家庭で気をつけたいこと】

写真投稿に関するトラブルは、**子供自身が「危険だと気づきにくい」**ことが特徴です。楽しさや便利さが先に立ち、どのような情報が広がるのかを想像しにくいからです。家庭では、「**この写真には何が写っているかな」「誰が見る可能性があるかな**」といった問いかけを通して、子供と一緒に写真を見る機会をつくるのが有効です。

また、子供が投稿した写真について注意が必要な場合でも、一方的に削除を求めるのではなく、「**なぜ心配なのか**」を丁寧に伝え、理解につなげる関わり方が大切です。

【ルールの決め方】

写真投稿に関するルールを決める際には、「**自分以外が写っている写真は必ず相手に投稿許可の確認をする」「制服や学校名が分かる写真は投稿しない」「困ったときはすぐ相談する**」といった、具体的な行動がわかる内容を含めるとよいでしょう。また、こうした SNS の使い方は保護者の使い方を模倣していることも多くあります。保護者も含めて家庭でルールを話し合い、気をつけるべきポイントを共有しておくことがトラブルの予防につながります。



かいせつ

せいせい エーアイ かつよう

生成 AI 活用のトラブル



どうなる？

「生成 AI」は学習のヒントをもらったり、考えを広げたりするのに役立ちますが、使い方に気をつけないとトラブルにつながることもあります。

生成 AI は文章をつくったり、質問に答えたり、絵や画像を作ったりするのに使えて便利だけど…。



① 考える力へのえいきょう

・宿題やレポートを作るときに、生成 AI に答えをそのまま書いてもらおうと、自分で考える時間が少なくなってしまう。これからの社会では、自分でアイデアを考えたり、答えを批判的に見る力が大切になります。

② 情報が誤っていることも

・生成 AI は、とてもそれらしい文章を作ることがあります。でも書いてあることがいつも正しいとは限りません。まちがった情報や、本当とはちがう内容が入っていることもあるため、そのまま信じて使うとまちがえたり、こまったことが起きたりすることがあります。

● 生成 AI は「副操縦士」

生成 AI は、時には間違ったり、あいまいな答えを出すことがあります。よく生成 AI は飛行機の「副操縦士」に例えられることがありますが、操縦士は AI を使う皆さんです。副操縦士に、上手に指示を出しながら、みなさんの目的にたどり着けるように使い方を考えてみましょう。

どうする？

① 生成 AI は「答え」ではなく「ヒント」として使おう

・生成 AI を使うときは、すぐに答えを出してもらうのではなく、まずは自分で予想したり、考えたりしてみましょう。そのあとで、「考えるヒント」や「調べるきっかけ」として使うことが大切です。また、生成 AI で文章を書いたり、アイデアを考えたりしたときは、「どこで」「どんなふうに」使ったのかを、自分の言葉で説明できるようにしておきましょう。

② たしかめながら使おう（ファクトチェック）

・生成 AI が作る文章や答えは、いつも正しいとは限りません。そこで、教科書や本、信頼できるウェブサイトなど、ほかの資料でも同じことが書かれているかを確かめてみましょう。このように、情報をそのまま信じずに、たしかめることを「ファクトチェック」といいます。ファクトチェックを意識すると、生成 AI を安心して、学びに生かして使うことができます。



考えてみよう

(^{つか}使い方や^{かんが}ルールを^{かんが}考えてみよう)



●^{せいせい エーアイ}生成 AI は

(_____) ^{つか}に使う

^{れい}例：自分の^{じぶん}考えをさらに^{ひろ}広げたいとき

●^{せいせい エーアイ}生成 AI を^{つか}使うときは

(_____) ^{つか}をする

^{れい}例：ファクトチェック、まずは^{じぶん}自分で^{こた}答えの^{よそう}予想

●^{せいせい エーアイ}生成 AI を^{つか}使うときは

(_____) ^{つか}をしない

^{れい}例：すぐに^{こた}答えを^{きく}きくこと



保護者の方へ



【家庭で気をつけたいこと】

生成 AI は、大人にとっても新しい技術であり、子供だけに注意を求めることは難しい分野です。家庭では、「使ってはいけない」と一方的に制限するのではなく、「**どんな場面で使うと役に立つか**」「**どんな使い方は問題になりそうか**」を、子供と一緒に使えそうな場面を考える姿勢が大切です。

また、生成 AI の利用について話題にすることで、子供が「わからないまま使う」状態を防ぎ、一緒に解決していく姿勢が大切になります。

【ルールの決め方】

生成 AI の利用に関するルールを決める際には、2つの視点が考えられます。

1つ目は、「**使ってはいけない時**」を決めるルールです。例えば、「宿題やレポートを生成 AI に作らせない」「人の写真を勝手に使ってイラストを創らない」など、禁止事項をルールにしておくことは大切です。

2つ目は、「**望ましい使い方**」を決めるルールです。例えば、「疑問に思ったことは生成 AI に尋ねてみる」、「文章を書くときに日本語の正しい使い方を生成 AI に確認してもらう」など、どんなときに活用することが望ましいかをルールにしておくことも有効です。「子供の方が詳しいから…」ではなく、家庭の実態に応じて、望ましい生成 AI の使い方を考えていくことが重要です。



かいせつ

じょうほうかつよう ほうほう 情報活用の方法

E

どうなる？



ICT を学習に使うと、わからないことをすぐに調べたり、いろいろな資料を見比べたりすることができます。また、文章作成ソフトやプレゼンテーションソフトを使うことで、自分の考えをまとめたり、わかりやすく伝えたりする力をのばすことができます。

① 友達といっしょに学ぶことができる

- ICT を使うと、友達と意見を共有したり、一緒に資料を作ったりすることができます。その中で、「どう伝えればいいかな」「どの情報をえらべればいいかな」と考えるきっかけが生まれます。

② ICT は「考えるための道具」

- ICT は、ただ調べるだけで終わったり、調べたことをそのまま写したりすると、効果的な活用とはいえません。大切なのは、「考えを深め、学びを広げる道具」として使うことです。情報を集めるだけでなく、整理したり、比べたりしながら、自分の考えとしてまとめていくために活用方法を考えていきましょう。

● ICT を活用できる力が大切

ICT を使っているつもりが、答えを聞いてその通りに従ってしまうだけになる場合があります。これを防ぐためには、自分で考えを予想したり、目的を明確にしながら使ったりすることが大切です。こうした「情報活用能力」を身につけながら、ICT を使っていくしましょう。

どうする？



① 調べた情報を比べて考えてみよう

- インターネットには、たくさんの情報があります。ひとつだけを見るのではなく、いくつかのサイトを見て比べてみましょう。たとえば、「同じことが書いてあるかな？」「ちがう考えはあるかな？」と考えることで、情報をよりよく理解することができます。また、生成 AI (p12-13) を使って、ちがう見方の意見を教えてもらうのもよい方法です。いろいろな考えにふれながら、自分の考えを作る練習をしてみましょう。

② ICT を使って考えをまとめ、伝えてみよう

- 文章を書くときに、下書きを作ったり、図や表を使ったりすると、考えをわかりやすくまとめることができます。また、発表の資料を作ることで、「何を伝えたいのか」を自分で考えながら、くふうする力も身につけられます。

考えてみよう

(使い方やルールを考えてみよう)



- 家庭で学習するときには使ってもよい端末は

()

例：パソコン、スマートフォン

- 家庭で学習のために ICT を使うときは

() のアプリを使用してもよい

例：Youtube、Google、生成 AI

- 家庭で ICT を使用してよいのは

() とき

例：おうちの人がいる、宿題が終わった

- ルールが守れなかったら

()

例：1 週間使用禁止

保護者の方へ



【家庭で気をつけたいこと】

「ICT = トラブルに合うから使わせない」ではなく、**リスクを上手に回避しながら活用していく力**を身につけて行くことが大切です。ICT を学習に活用する力は、一度に身につくものではありません。家庭では、「正しく使えているか」を細かく確認するよりも、「どんなことを調べたの?」「どんなことがわかった?」と、学びの内容そのものに目を向けた声かけが大切です。

また、子供が ICT を使って調べたことや作ったものに関心を示すことで、ICT を学習に活用する意欲を高めることにつながります。

【上手な情報活用に向けた考え方】

ICT の活用方法については、「正解」が一つに決まっているわけではありません。家庭でも、「**どうすればもっとわかりやすくなるかな」「次はどんな使い方ができそうかな**」と一緒に考えることで、子供自身が学び方をくふうする力を育てることができます。

また、学校では ICT を活用してどんな学びをどんな目的で行っているのかを知っておくことも大切です。ICT をはじめとする子供たちの情報活用能力の育成は、学校だけでも家庭だけでも成り立ちません。両者が同じ視点で子供の学びを支えていくことが大切です。



さか い きょうへい
酒井 郷平（常葉大学 准教授）

教育工学、情報モラル教育、ICT教育、教育デザイン研究



教育工学・教育実践学の視点から、「深い学び」や「協働的な学び」につながる授業設計やICT活用を研究テーマとしています。特に、情報活用能力や情報モラルを中心に、学校現場と連携した実践研究や教材開発に取り組んでいます。あわせて、現代的な教育課題に対応できる教員養成や教育の在り方について、学校にとどまらず社会との連携を通して検討しています。

2026年4月発行

発行所 学校図書株式会社

〒101-0063

東京都千代田区神田淡路町2丁目23番地1

TEL:03-6285-2916

URL:<https://gakuto.co.jp>